

平成22年9月2日(木)

国土交通省関東地方整備局 首都国道事務所
東日本高速道路(株)関東支社 千葉工事事務所

記者発表資料



がいかん

国道298号 東京外かく環状道路（外環）

いちかわ うらやす

国道357号から県道市川浦安線までの国道部（暫定2車線）

開通1年後の交通状況等のお知らせ

外環(千葉県区間)は、高速道路部と国道部で構成される延長12.1kmの路線です。このうち国道部の延長約3km(国道357号～県道市川浦安線)が暫定2車線で平成21年8月8日に開通し1年が経過しました。このたび開通1年後における交通状況および地域の皆様からの声を取りまとめました。今後とも地域の交通状況の一層の改善を目指し、1日も早い完成供用に向け、全力で取り組んで参ります。

- ① **開通区間の交通量は1日あたり約1.2万台**
並行する道路の交通量は最大で約3割減少
大型車は約2割減少
- ② 開通区間の周辺地域では、歩行者や自転車に関する**事故発生件数が約2割減少**
- ③ 湾岸線周辺地域から京葉道路までの**アクセスが向上**

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会
千葉県政記者クラブ、市川市政記者クラブ、松戸記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局	首都国道事務所	電話 047-362-4111 (代)
	副所長(地域広報官)	ふじた あきら 藤田 明 計画課長 丸山 昌宏
東日本高速道路(株)関東支社	千葉工事事務所	電話 043-350-3321 (代)
	副所長	まつむら たつゆき 松村 龍之 工務課長 ちば たかひと 千葉 隆仁

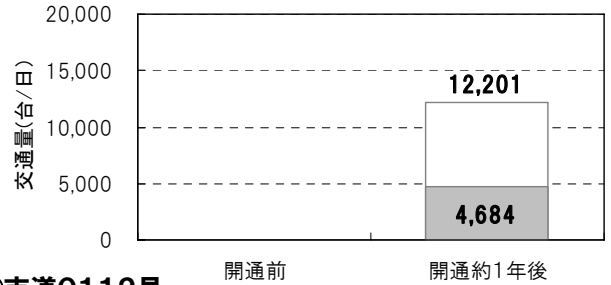
① ; 開通区間の交通量は1日あたり約**1.2万台**
 並行する道路の交通量が最大で約**3割減少** 大型車は約**2割減少**

●周辺道路の大型車交通量は減少しているが、混入率は20~40%と依然高い(県平均14%)

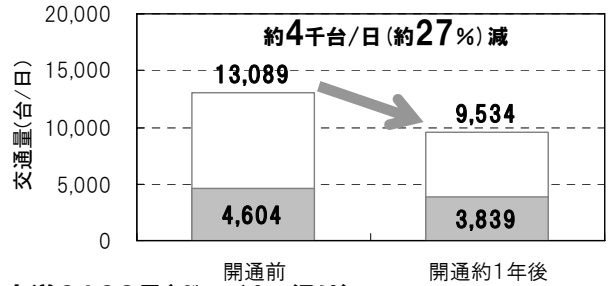


※高谷ICは開通区間に含まれません。IC・JCT名は仮称です。

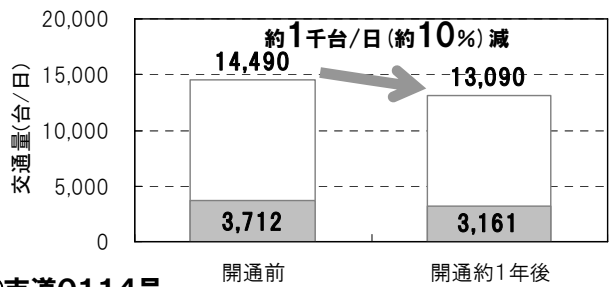
①国道298号



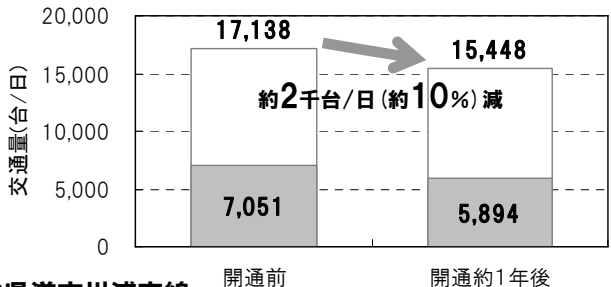
②市道0112号



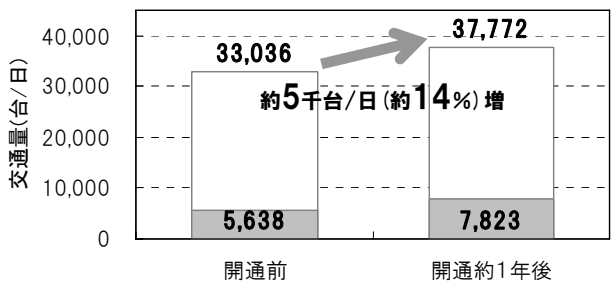
③市道0109号(ガーデナー通り)



④市道0114号



⑤県道市川浦安線



⑤位置拡大図 (県道市川浦安線と国道298号の交差点)



【調査日】開通前 平成21年2月17日(火) : ③
 平成21年3月 3日(火) : ②④⑤
 開通約1年後 平成22年7月 6日(火)

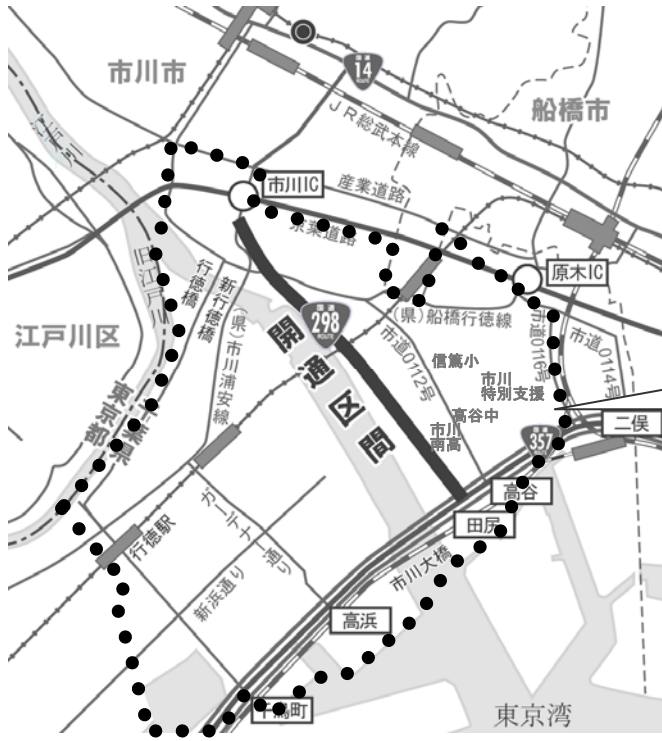
【凡例】
 □ ←全車種交通量(台/日)
 ■ ←うち、大型車交通量(台/日)

※県平均の大型車混入率：H17センサス 千葉県 地方道の日平均交通量(平日)より算出

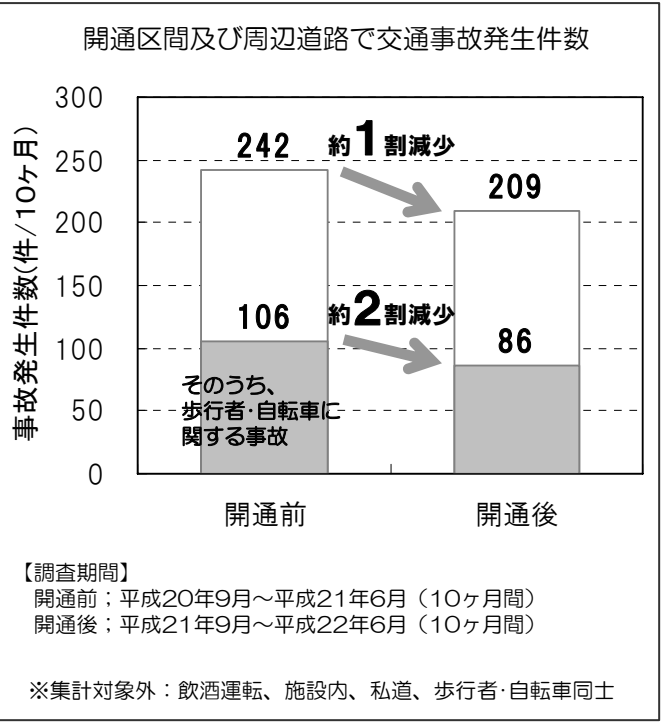
② ; 開通区間の周辺地域では、歩行者や自転車に関する

事故発生件数が約**2割減少**

- 開通区間を含む周辺道路において、交通事故発生件数は約1割減少。
歩行者や自転車に関する事故発生件数は約2割減少。



● 開通区間周辺地域
田尻地区、高谷地区、原木地区、稲荷木地区、上妙典地区
行徳地区、高浜町地区、千鳥町地区、妙典地区 他



資料：千葉県市川警察署
行徳警察署 提供資料

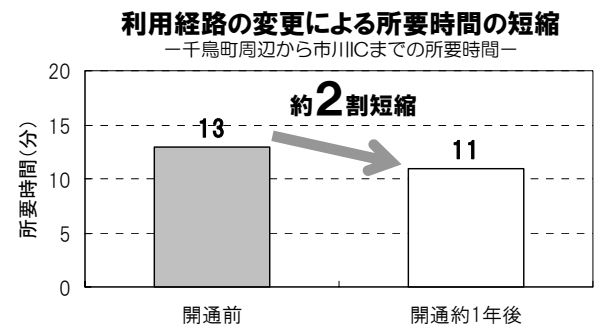
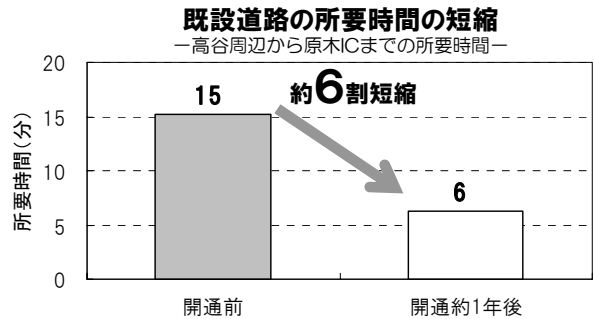
< 地域の住民や企業からの声 >

- 自転車等を利用する際、開通区間は歩道の幅が広いので、幅の狭い周辺道路よりも安心して通行できる。
- 開通区間は見通しが良く、歩道と車道が分離されているので、歩行者事故に対する懸念が和らいだ。
- 周辺地域の道路は幅員の狭い場所も多いが、開通区間は幅員が広く、安心して走れるので利用している。

③ ; 湾岸線周辺地域から京葉道路までのアクセスが**向上**

- ・高谷から原木IC間の所要時間が約6割短縮
- ・千鳥町から市川IC間の所要時間が約2割短縮

●混雑する帰宅時間帯において、湾岸線周辺地域から京葉道路イタチヅまでの所要時間が短縮。



【調査期間】
開通前：平成20年7月～平成21年2月の平日10日間
開通後：平成22年7月の平日3日間
※調査時間帯は、いずれも16～19時（3時間平均）

← 開通前のルート ← 開通後のルート

< 地域の企業からの声 >

- 原木IC周辺の交通量の減少により、社宅と工場を結ぶ送迎バスの所要時間が軽減した。
- 今後、外環が完成すれば、特に市川駅周辺等のエリアでの配送時間が更に読みやすくなり、お客様からの信用・信頼の獲得に繋がると考えられる。
- 県道市川浦安線(新行徳橋)は、開通区間によって、稲荷木南交差点付近の朝夕の混雑が酷くなり、利用しづらくなった。

< 市川市消防局からの声 >

- 救急医療施設へ搬送する際、混雑する市街地を通過するため時間を要することもあったが、開通後はアクセス性も高まるなど、搬送先の選択肢が広がった。
- 一刻を争う搬送において、所要時間が1分2分短縮するという効果は大きい。
- 開通区間は周辺道路と比べると、大型消防車が通行し易く、幹線道路へのアクセス時間が短縮されるので、救急搬送ルートの1つとして利用するようになった。